



# 生からの死、死からの生

## 住職・東海康道

この度の東日本大震災でお亡くなりになりました方々には、心よりお悔やみ申し上げます。又、被災者の方々にはお見舞い申し上げます。

大地震と大津波で、一瞬にして海岸沿いの市町村が流されてしまいました。特に津波の脅威には誰しもが言葉が失ってしまいました。

さらには、追いつちをかけるような人災（福島原発事故）!!



（大本山崇福寺貫首・法相宗 山田法胤師範出身。昭和十五年生、根尾村側出身。）

この新聞が発刊されるころには四ヶ月近く経つはずですが、復旧はどこまで進んでいるのでしょうか？

大震災前までの日本人は、大部分が生きていることにのみ精を出し、時には物欲や金銭欲に走りすぎていた気配はなかつたのでしょうか……？ 若干本論から逸脱するかも知れませんが、定年後の日本人の「生の質」や、その先にある「死の質」が大変低くなつていくという指摘がなされていたことでも、想像がつくのではないのでしょうか？

本来仏教では、「生死」とか「生死一如」を説いているはずですが、残念ながら、この教えが社会に定着していないと言わざるを得ません。ビハークラ長良学会では、「生死を切り離さない

### 第四十四号

発行日 平成二十三年七月一日  
発行所 神護山・崇福弘濟禪寺  
（岐阜市長良崇福寺町二）  
[www.sōfukūji.net/~soufukūji](http://www.sōfukūji.net/~soufukūji)  
印刷所 岐阜 早海 文芸社

とらえ方」を学習しておりますので、皆様方も御参加されてみませんか。

生のすぐ先にある死を考えると、皆様が御参加されてみませんか。そのみならず、死より現在の生を見つめることが、大変重要なのです。そうすれば、生が輝いて見えるはずで、生き活きたした生が送れることでしょう。死の価値感を確立させることは、兎にも角にも、生の価値感をも確立させることになるのです。この震災で、「生死一如」に気付かされた方は、大変多かつたことと存じます。

おいとまをいただきますと戸をしめて出てゆくやうにゆかぬなり生は

死の側より照明（てら）せばことにかがやきてひたくれなるの生ならずやも

（家人・斎藤史）

## 被災地を訪れて

副住職・東海宏徳

東日本大震災から四ヶ月ほど経ちました。震災直後から現地に支援に行きたい思いはありましたが、なかなか実行に移せませんでした。妙心寺派のボランティア拠点が松島に設置されたため、六月六日から十日まで、被災地に行つてきました。



被災した寺院のお手伝いとして、七ヶ浜町の同性寺さん、気仙沼市の地福寺さんに行きました。同性寺さんは幼稚園があり、いち早く再開しているのですが、すぐ隣の田んぼは瓦礫の山、それでも子供たちは元気に遊んでいました。気仙沼の地福寺さんの光景は衝撃でした。お寺は津波で壁が抜けてしまいました。



建物は無事でした。しかしお寺から1km先の海岸まで建物は全く残っておらず、震災前は建物で海は見えなかったのよといってお麻裏さんの言葉が信じられませんでした。それでも復興に向けてがんばっておられ、百ヶ日法要・行方不明者の早期発見祈願の準備をしておられました。住職作詞、住職の弟さん(ジャズドラマー)作曲の「あいことば(歌・八代真生)」というCDも発売し、少しでも復興の足しになればとのことでした。アマゾンでも購入できますので興味のある方は是非お願いします。

移動も含め五日間では大したことでもできず、無力を痛感させられた。しかしながら、お手伝いに行ったことで少しでも喜んでいただけたと思っております。阪神大震災のとき、私は高校二年生でした。ボランティアの姿が報道され、私も行きたい気持ちがありました。私が行きたことはありませんでした。そのときの後悔がありました。僧侶という立場になり、幸い今は住職と二人体制で自由が利くため、東北の地まで行くことができました。檀信徒のみなさまも被災者のために何かしたいという思いはあるかと思えます。私はみなさまに支えられているから行って来られた、みなさまの代表として行って来たと思っております。

ありがとうございます。



(四角の写真・副住職)

東日本大震災義援金

(宗福寺関係)

◎三月十八日 五四、六九〇円

◎三月二十五日 三五、一四三円

◎六月九日 三八、一〇〇円

◎三月十九日 一、〇〇〇、〇〇〇円

◎四月五日 一、〇〇〇、〇〇〇円

◎その他・数件あり

- ◎三月十八日 五四、六九〇円  
宗福新聞社会事業団へ  
※副住職・若寺徳 枝阜駅前浄土分
- ◎三月二十五日 三五、一四三円  
枝阜新聞社会事業団へ  
※佛母会供養会浄土会金分
- ◎六月九日 三八、一〇〇円  
日本赤十字社へ  
※拝観費、その他本山普善堂分
- ◎三月十九日 一、〇〇〇、〇〇〇円  
中日新聞社会事業団へ  
※住職・東海康徳(個人)
- ◎四月五日 一、〇〇〇、〇〇〇円  
妙心寺派宗務本所へ  
※住職・東海康徳(個人)
- ◎その他・数件あり

妙心寺派宗務本所からのお願い!!

妙心寺派宗務本所より、花園会員の皆様方に、下の様な文章が届くと思います。

花園会員の被災者見舞金のお願いです。一戸あたり二千元以上のお願いが出来ればということです。

当山からお願い申し上げます。

仏教あれこれ

あなたは何色の喪服を着ますか?

こんな質問をされたら、あなたならどう答えますか? 「そんなの黒に決まっているでしょう!」と叱られてしまうのが落ちでしょうね。

しかし、万葉集の時代には、「白妙の麻衣」とか「素服、喪服」と記されており、白色を表していたのです。白は清浄・潔白を意味するところから、慶事にも弔事にも使用していたのですが、仏教の定着と共に、地味で沈んだ色の方が似つかわしいと考えられるようになりました。奈良時代には浅黒色の袍、平安時代には鈍色を着るようになったのです。今のように黒一色になったのは、最近だそう。先師(惠遠和尚)の葬儀の時には、白の麻衣を身につけました。



(宗務本所からのお願い文)

第三回ヒナラ長良公開講座

五月十九日に、高木医院院長の高木寛治先生より、「在宅医療・在宅緩和ケア」を希望するためにはどうしたらよいかをお話ししていただきました。詳細は、左の如く中日ホームニュースを転載致しましたので、御参考になさって下さい。

「在宅医療・在宅緩和ケア」を希望する人に



「在宅医療・在宅緩和ケア」を希望する人への講演内容。高木先生は、在宅医療の重要性を述べ、在宅緩和ケアの具体的な取り組みについて詳しく説明された。また、在宅医療を実現するための体制づくりや、家族のサポートの重要性についても触れられた。

蛇足になりますが、講座をお聞きして気が付いたことを二点お知らせしておきます。

第一点は、万が一おひとりでお亡くなっていた場合でも、かかりつけ医や訪問医がある場合には、警察は必要ないそうです。

第二点は、自宅での末期を望む場合、救急車は絶対最後迄呼んでおかないように。書面にしておくことだそうです。

病院にたどりついていても短時間で亡くなったり、場合によっては救急車の中で息を引き取る事が多いとの事です。

私も寺坊での末期を希望しておりますので、大変参考になりました。

高木先生には感謝申し上げます。ありがとうございました。



岐阜西教区御親化授戒会

花園会員様には、すでに申し込み書が渡っているとは存じますが、もう一度御説明させていただきます。

私たちは日々の生活に追われ、本来自分の持つべき仏心を忘れてしまいがちです。

その本来の仏心に気づかせていただくためには、基本となる正しい教えと決まりが必要になるわけです。

授戒会は何度受けられてもよいのです。又、花園会に入っておられない方も、この際に御入会され、授戒会もお受けになられてはどうでしょうか。

死後に戒名をいただくのが正式ではなく、授戒会について戒名をいただくのが正式なのです。

期日 平成二十四年五月二十九〜三十一日

場所 長良川国際会議場

戒礼 本戒・金一万円也 因縁戒・金二千元也

※因縁戒は、御先祖様の供養のためのものです。

締切日 平成二十三年 十二月末日迄

お寺からの手紙 ⑤

ありがとう!!

わたくしたちは、いろいろな場合に「ありがとう」という言葉を使いますよね。本当の意味を考えたことがありますか？

ところで、皆さんに質問してみたいと思います。私たちが住んでいる地球はいつごろできたでしょうか？

答えは四十億年前です。それから十億年かけて海ができたのです。それから三十二億年の間、海の中で単細胞生物たちが、炭酸ガスを酸素に変える仕事(光合成)をくり返してくれました。


おかげで、地球に十分な酸素が満たされるようになったのです。それが四億年前のことなのです。

このことなのです。海中では魚類、地上ではコケ類やシダ類が生まれ、その後進化を繰り返して、人類が誕生したのが三百万年前なんです。

よ。

す。昭和二十年七月九日、岐阜市に空襲があり、約九百人の人達が犠牲になられ、市内の約八十パーセントが焼け野原と

**平和の鐘を撞こう!!**



その途中では、水河期や大隕石の衝突などがあつたけれど、一度も途切れることなく続いてきた。いのちが、あなたであり「わたし」なのです。

いのちがあるということ、こんなにも大変な連続のおかげなのです。不思議(不可思議)で奇蹟なのです。

ですから、いのちが「有るのが難かしい」から、「有り難い」とか「有り難う」という言葉になつたのですよ!!

だから、「ありがとう」は、口先だけでなく心から感謝を込めて使わないとネ……。

**平和都市宣言**

緑豊かな金華山と清流長良川に代表される私たちのふるさと、自由と平和をとうとぶ風土をはぐくみ、活力に満ちた住みよいまちづくりを目指しています。この美しい自然を愛し、自由と平和を求める心はわたしたちのみならず、人類共通の願いであります。

わたしたちの岐阜市は、世界の各都市と友好・姉妹都市提携を進め、相互の信頼を深めつ平和への道を歩んでいます。

市開施行100年を迎えるにあたり、すべての核兵器と戦争をなくすことを訴え、世界の人々とともに真の恒久平和が達成されることを願い、ここに「平和都市」を宣言いたします。

昭和63年7月1日 岐阜市

なつたそうです。戦争の犠牲者を追悼すると同時に、不再戦の誓いを再度新たに、平和についてそれぞれが考える機会にすべき日としたいものです。

平和の鐘を撞きましょう!! (時間は九時からです)

**夏休みお経と坐禅の会**

- 七月二十一日(木) から 三十日(土) まで
- 朝七時十分から八時十分まで
- 崇福寺本堂

十年・二十年前に参加された方から、その当時の事を聞かせていただくことがあります。当方もなつかしきで、心が一杯になります。

実体験をしてみてください。子供さんだけでなく、大人の方もどうぞ!!



**崇福寺遠諱(平成二十五年)**

以前にもお知らせしたとおり、平成二十五年は、独秀乾才(勳諡法智普光) 禅師の五百年遠諱に当たります。この方は、妙心寺派に崇福寺が転派した時の開山様です。

不思議なことに、現在の神護山崇福寺の前身である、大寿山崇福寺(五山派)の開山、太白

真玄禅師の六百年(正式には五九九年) 遠諱とも重なるのです。そろそろ遠諱の大まかな概要を練らなければなりません。

先ず、責任役員(総代)や花園会執行部の方達との話し合いが第一義だと思えます。

尚、平成二十四年三月末が、役員の改選期となりますので、本格的な動きはそれ以降になるかも知れませんが……。



(ざくろとあじさい・写真住職)

**美濃西国霊場会役員改選**

三十三観音霊場会会長を三期六年務めさせていたいただきましたが、この度その任を閉じさせていただきます。皆様方の御支援に感謝致しております。

次期の会長さんは、跡部の恵利寺・東海宗活師に決まりました。

**いのちのちぎ**

このいのちのちぎは、自分で守ることが大切ですね!!